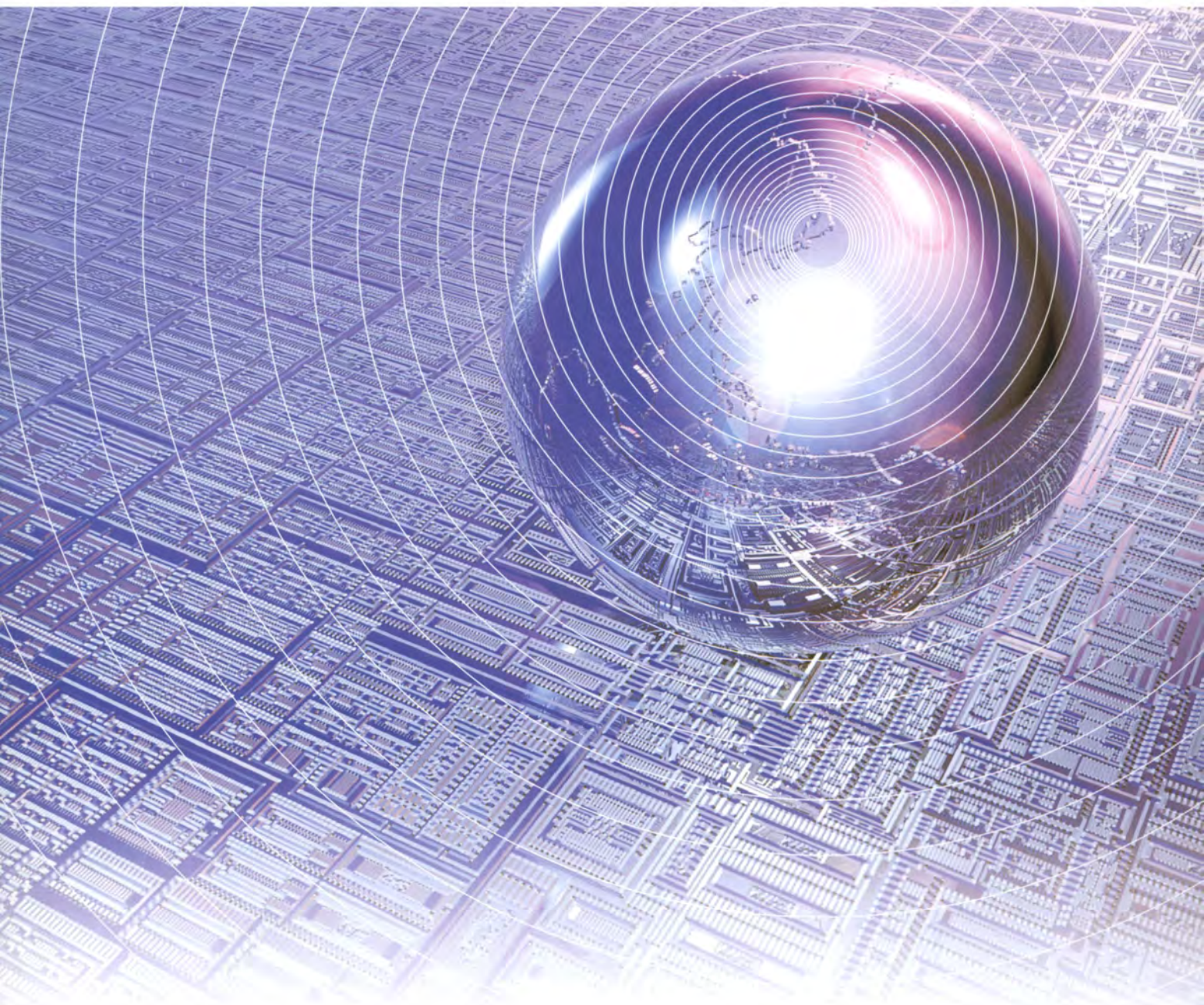


文部科学省

国立情報学研究所

平成13年度 要覧



NII

National Institute of Informatics

Contents



目次

■はじめに	1
■国立情報学研究所の特色	2
■国立情報学研究所における研究について	3
■情報学基礎研究系	4
■情報基盤研究系	5
■ソフトウェア研究系	6
■情報メディア研究系	7
■知能システム研究系	8
■人間・社会情報研究系	9
■学術研究情報研究系	10
■実証研究センター	11
■情報学資源研究センター	12
■研究協力／大学院教育	13
■研究成果の普及	14
■国立情報学研究所における開発・事業について	15
■学術情報ネットワーク	16
■目録所在情報サービス	18
■情報検索サービス	20
■オンライン学術用語集	21
■学協会情報発信サービス	21
■電子図書館サービス	22
■オンラインジャーナル編集・出版システム	23
■学術研究活動等に関する調査	24
■国際事業の展開	25
■研修事業	26
■評議員・運営協議員・参与・名誉教授	27
■組織／予算・定員	28
■施設	30
■沿革	32
■問い合わせ先	33



国立情報学研究所は、平成12年4月に創設されてから2年目を迎えました。この間、昨年7月に沖縄で開催されたG8サミットでは、情報通信技術(IT)が主要な議題として取り上げられ、「グローバルな情報社会に関する沖縄憲章」において「情報通信技術は、21世紀を形作る最強の力の一つであり、すべての者にとって大いなる機会を提供する」と言及されるなど、「情報」は21世紀のキーワードとなっています。

国立情報学研究所が対象とする「情報学」は、社会に広く深く関わる21世紀を指向した新しい学問分野です。情報学は、情報に関する広範な研究領域に総合的に関わる学問であり、計算機科学や情報工学だけでなく、生命科学や人文・社会科学の様々な分野をも包含するものです。情報学は、各分野における研究の深化と分野間の連携による学際的な研究活動を通じて飛躍的に発展し、その結果、社会・経済活動のあらゆる側面を支える学問的基盤になると期待されています。こうした情報学の研究成果は、広く社会に還元されるべきものです。国立情報学研究所では、創造研究に力を注ぐと同時に、その成果を情報資源やネットワーク環境の整備などの学術情報基盤の構築のために実証的に適用し、展開・統合していくことを重視しています。

このように、国立情報学研究所は、情報学に関する総合的研究と、学術情報の流通のための先端的な基盤の開発・整備という、二つの目的を有する大学共同利用機関として、現在、体制の整備を進めてい

ます。研究の面では、情報関連分野の研究開発を創造から展開・統合まで幅広く行うとともに、広範な研究領域間の連携による学際的研究を推進し、国内外の大学・研究機関や企業等との連携・協力により、情報学研究を国際的かつ総合的に行っています。また、学術情報基盤の整備・開発の面では、情報学研究の成果を速やかに反映させることにより、学術情報ネットワークの構築・運用や各種の学術情報サービスの提供などの開発・事業を展開しています。国立情報学研究所は、これら研究と開発・事業の二つの側面の活動を車の両輪のように一体的に推進することにより、情報を取り巻く様々な課題に取り組んでいます。

今日の世界的規模での情報通信技術の急速な進歩と普及は、新たな可能性と同時に情報格差(デジタル・デバイド)やセキュリティの確保など様々な課題を生み出しています。新たな「情報の世紀」において、国立情報学研究所が情報学研究と学術情報流通の中核的機関として担うべき役割は一層重要性を増すものと考えられています。国立情報学研究所における情報学研究の成果が、学術研究や科学技術のみならず産業・経済の発展に資するとともに、国民生活や文化の向上に貢献するものとなるよう、努力を積み重ねてまいりたいと存じます。

平成13年7月

国立情報学研究所長
末松 安晴

国立情報学研究所の特色

国立情報学研究所は、情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための先端的な基盤の開発と整備を行うことを目的とする大学共同利用機関として、平成12年4月に設置されました。国立情報学研究所では、長期的な展望の下に、ネットワーク、ソフトウェア、マルチメディアなどの情報関連分野の研究開発を基礎から応用まで幅広くカバーするとともに、全国の大学はもとより国立研究機関や民間企業の研究所との連携・協力を重視し、情報学研究を総合的に進めていくことを目指しています。

基礎から応用までの総合的研究

情報分野において学術性の高い研究を自然科学から人文・社会科学まで広範かつ長期的に発展させ、基礎から応用にわたり、理論から実用化に至る研究を一体として行っています。

学際性の追求

研究領域間の連携による横断的研究や幅広い学問分野の相互作用による学際的研究を推進することにより、学術研究の高度化・総合化のために有効な手段を提供し、学問全般の発展に寄与しています。

産官学の連携

大学、国立試験研究機関及び民間研究機関との間の緊密な連携を図り、我が国における情報学の飛躍的發展を目指します。また、これらの機関と協力してプロジェクト型共同研究を実施し、研究成果の社会における活用を促進しています。

国際的な研究活動

諸外国との研究者交流を活発に行い、国際共同研究を積極的に実施することにより、国際社会への発信に努めています。また、国際的標準化活動にも貢献しています。

学術情報基盤整備の推進

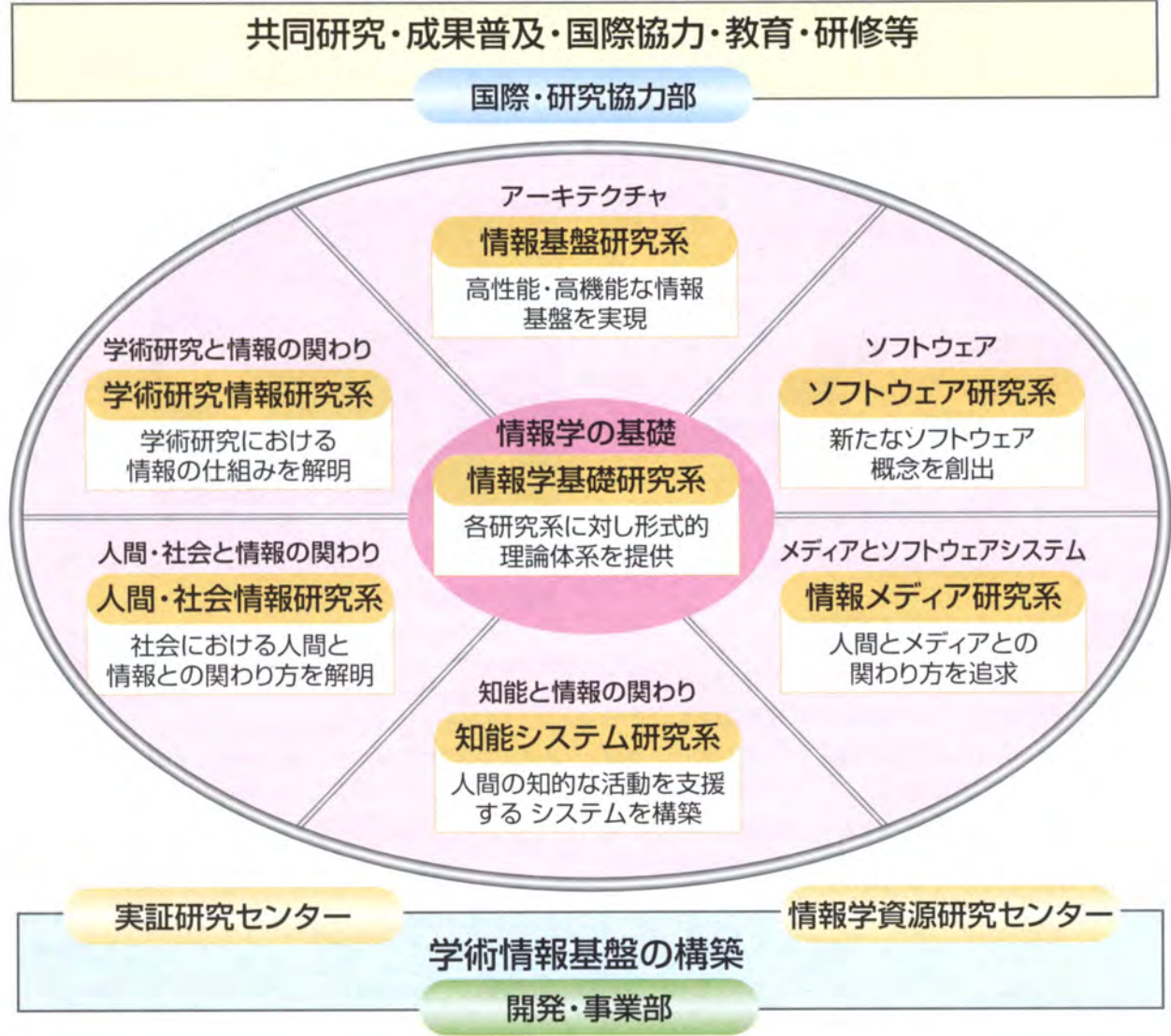
学術情報ネットワークの構築・運用、大学図書館等の所蔵する図書・雑誌の総合目録の作成、学術情報データベースの形成・提供や大学図書館職員に対する教育・研修等の事業を通じて、我が国の学術情報基盤整備において重要な役割を果たしています。



国立情報学研究所における研究について

国立情報学研究所が対象としている情報学 (Informatics) は、計算機科学や情報工学だけでなく、人文・社会科学や生命科学などにおける情報に関する研究テーマを広範かつ総合的に取り扱う新しい学問分野です。7つの研究系において、情報学の基礎から応用までの基幹的研究を中長期的視野に基づいて研究しています。また2つの研究センターにおいて、研究の実証と実用化、学術情報資源の蓄積と活用に関する研究開発を進めています。

国立情報学研究所の研究組織



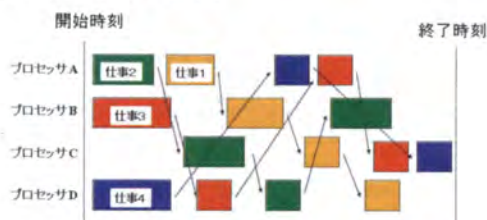
情報学は、学術・教育の各分野における研究の深化と分野間の連携による学際的な研究活動を通じて今後飛躍的に発展し、その結果、社会経済活動のあらゆる側面を支える学問的基盤になると期待されています。国立情報学研究所では、大学共同利用機関として、上述の研究組織を通して我が国内外の他の大学・研究機関との間の緊密な連携を図り、これらの機関と協力して共同研究を推進すると共に、学術情報基盤を構築し、情報サービスを提供するというユニークな特徴を持っています。この先端情報学研究と実践的環境を有機的に結合することによって、大学や社会からの要請に応え新しい成果を生み出すことが期待されます。

情報学基礎研究系

計算理論、アルゴリズム論、数値解析、人工知能、認知科学、生命情報科学など様々な視点から、情報についての基礎的な研究を多面的かつ総合的に進め、情報学の基本的な概念や理論を作り上げることを目指します。さらに、これらの概念や理論を実現し、応用するための方法論や実装法についても研究します。

型理論と構成的論理の研究

型理論は近年重要になってきたプログラミング言語の型の概念を数学的に解析する理論です。構成的論理は普通の論理から排中律を除いた論理であり、構成的論理における証明はアルゴリズムを含みます。この2つは元々異なる研究対象でしたが、同型に対応することが発見されました。型理論と構成的論理およびそれらの間の同型対応を研究しています。



スケジューリングアルゴリズムの改良

スケジューリング問題などの組合せ最適化、反復解法、近似アルゴリズムなど実際のアルゴリズムの研究も行っています。

数値解析と計算論の研究

偏微分方程式の数値解法などで生じる特異な線型系の反復解法の収束性や、固有値問題の反復解法およびその精度保証計算に関する研究を行っています。また、関数を計算するのはどれだけ難しいか、どれだけ道具立てが最低限必要か、という問題を計算の複雑さ及び証明の複雑さの理論を通して考察し、これらの理論を自動証明機の開発に応用する研究を進めています。

記号処理研究

論理などで用いられる人工的な記号にとどまらず、自然言語処理や事例ベース推論など、広義の記号処理を対象にした研究を行っています。論理的な記号処理研究としては、非単調推論やオーダソート論理のような高次の推論処理の研究を行っています。また、広義の記号処理研究としては、XMLに基づいた自然言語文の意味情報の自動付加やマルチメディアを事例として用いた事例ベース推論の研究を行っています。

◆アルゴリズム基礎研究部門

◆情報数理研究部門

◆記号科学研究部門

◆認知科学研究部門

◆生命情報科学研究部門（客員部門）

思考と言語に関する認知科学的研究

問題解決において図形やメモなどがどのように使用されているのか、あるいは、談話が発話と身振りによってどのように構造化されているかなどについての研究を、人工知能や心理言語学など認知科学の観点から行っています。



mata hoori dasarete
again throw get-out passives and
Again, (the cat) gets thrown out.

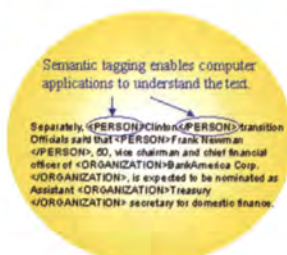
図中の身振りと共に起している発話：
「またほおりだされて」

発話—身振り研究

上の図では、左側の語り手が、自分が観たアニメーションの物語を身振りを交えて右側の聞き手に説明しています。発話—身振り研究では、このようなビデオから得られる映像と音声のデータを観察することで談話が発話と身振りによってどのように構造化されているかを心理言語学的に解析しています。

ゲノム解析支援システムの研究

ゲノム情報を中心として、爆発的に増加する生物データを獲得・評価・管理・利用するための理論、技術、課題について研究しています。また、ヒトゲノム構造解析および遺伝子発現量解析のための高精度かつ高スピードのアルゴリズムを設計し公開しています。

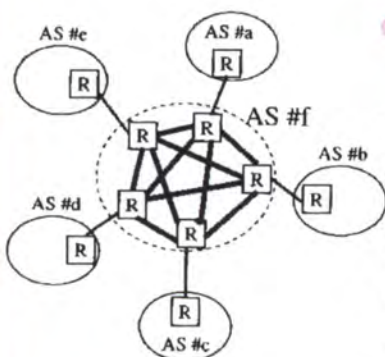


タグ付けされたXMLテキストからの学習

情報基盤研究系

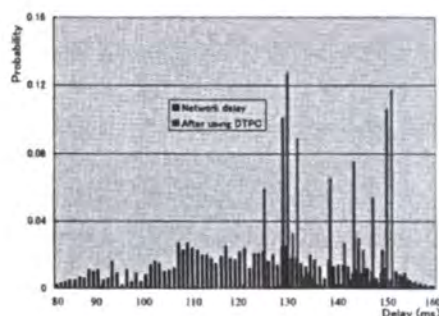
情報技術の基盤的な要素である計算機システムと計算機ネットワークの実現法について研究します。最先端の研究活動を通して、従来の計算機では実現できなかった複雑な情報処理を可能にする高性能な計算機システムの開発や、情報を円滑かつ安全に流通する高性能な計算機ネットワークの構築を行い、情報社会を支える情報基盤の新しい姿を追求します。

- ◆計算機アーキテクチャ研究部門
- ◆ネットワークアーキテクチャ研究部門
- ◆高性能ネットワーク研究部門
- ◆情報流通基盤研究部門
- ◆ネットワークセキュリティ研究部門（客員部門）



ルータ管理情報応用の研究

動作中のコンピュータネットワークの健全性や安全性を保全するためには、各種プロトコルレイヤの総合的監視をしなければなりません。そのためにはネットワークを構成するルータから管理情報を取得して総合的に分析することが非常に有効です。そのような手法についての研究です。



通信品質のモデル化の研究

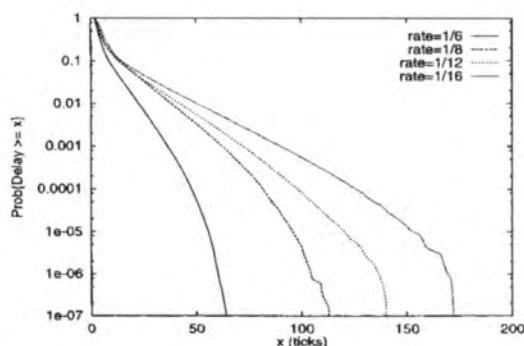
通信ネットワークが大規模／複雑になるほどパケット遅延などその動作を理解するのは困難になりますが、一方で高品質通信のためにはその予測が不可欠です。通信ネットワークの挙動を数理モデルで表現することで、トラヒックと特性を近似する研究です。

マルチメディア同期の研究

テレビ番組などを情報ネットワークで送る場合は、画像と音声を別チャンネルで伝送しますが、通信中にそれぞれ異なった遅延が発生するため、そのままでは絵と音がずれてしまいます。それを防ぐ手法の研究です。

高速ネットワーク通信品質保持のためのトラヒック制御方式の研究

ネットワークが高速になり、その上に音声、動画、データ通信などの各種通信が行われるようになると、各応用ごとに異なった通信品質要求をどう満足させるかが重要になります。通信トラヒックの特性に着目して、応用ごとに最適なスケジューリングを行う研究です。



ユビキタスコンピューティングネットワークの研究

多数のコンピュータがネットワークを介して連動し、人間活動をサポートするユビキタスコンピューティングネットワークに関して、異なる種類のメディア、サービス、端末の間の自由な通信を自動的に提供する手法の研究です。

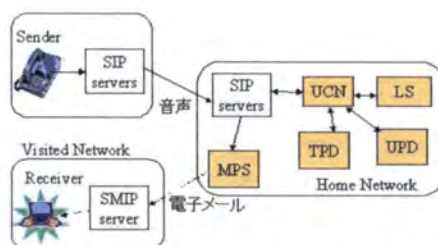


図 ユビキタスコンピューティングネットワークアーキテクチャの一例

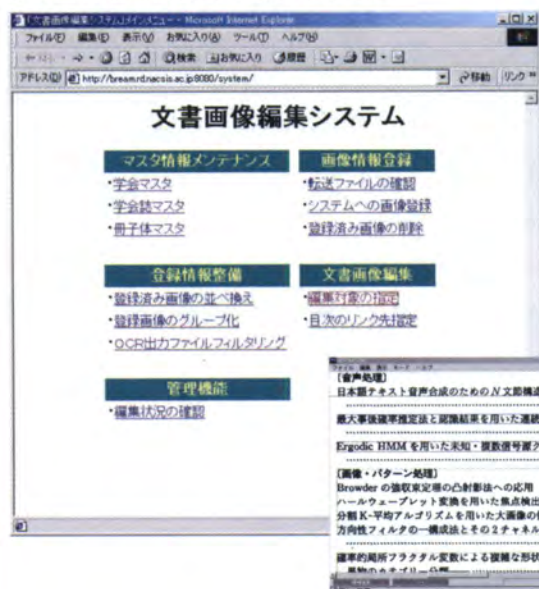
ソフトウェア研究系

情報処理の中核を成すソフトウェアの諸概念について研究します。ソフトウェアについて記述言語、処理系、開発法などの側面から系統的に考究することによって、新しいソフトウェアコンセプトの創出を目指します。このような研究を通して、ソフトウェアの能力、生産性、信頼性を飛躍的に高め、より複雑で高度なシステムの構築を可能にします。

- ◆プログラミング言語研究部門
- ◆ソフトウェア工学研究部門
- ◆データ工学研究部門
- ◆分散統合処理研究部門
- ◆高信頼ソフトウェア研究部門（客員部門）
- ◆大規模ソフトウェア研究部門（客員部門）

高速近似文字列マッチングに基づいた書誌統合

近似文字列マッチングを用いて文書画像中の書誌情報を抽出し、関連する情報を統合する研究です。スキャンされた文書画像データに適用することによって、大規模電子図書館の構築を可能にします。



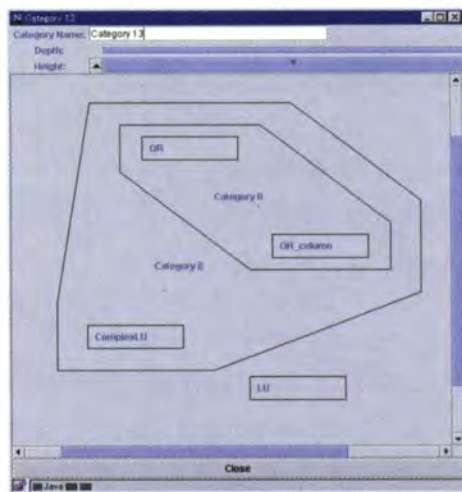
ビデオ画像へのインデクス付与：Name-IT

ビデオの被写体が誰なのか、名前を特定する手法、また、その人物の写ったビデオを検索する手法の研究です。



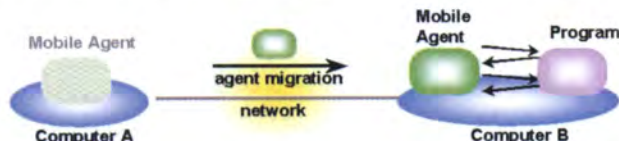
テキスト分類による情報空間アクセスの研究

SVM(support vector machine)により各種文書に内容の近遠関係を導入し、クラスタ分類することができます。これは同手法を人間とコンピュータの会話に応用することで、高度な情報検索インタフェースを開発する研究です。



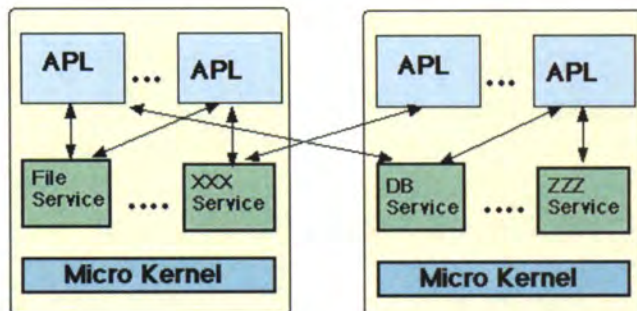
モバイルエージェント

コンピュータ間移動能力をもつ能動的プログラムであるモバイルエージェントの実現およびその応用システムに関する研究です。



拡張型分散OSの研究

適用分野の要求に応じて容易かつ安全に機能の追加ができ、高度の分散処理を容易に実現できる、融通性に富む分散OSの研究です。大規模実時間システム等への適用が目的です。



情報メディア研究系

情報学研究で扱う情報は、テキスト、画像、音声などの多様なメディアの情報を対象として、表現・解析・検索などの有効な処理方法を提案します。これらの活動を通して、人間と情報メディアとの関わり方を技術的側面から考究します。

- ◆画像情報処理研究部門
- ◆統合メディア処理研究部門
- ◆情報検索研究部門
- ◆コンピュータビジョン研究部門 (客員部門)

多点汎用入力装置とその応用

高周波駆動メモリ素子を使用して、多数の区画の上に載せた物体の種類と場所を入力する装置を開発、これを小学校の環境問題教育に应用しています。コンピュータ上に仮想的な都市を構成し、子供たちが駒を動かすとリアルタイムで都市の風景が変化します。



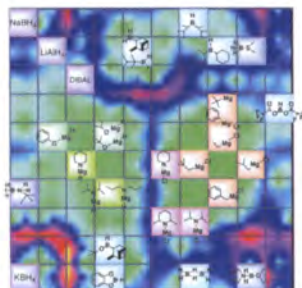
焦点位置を自由に变化させる画像合成

人物（近景）と背景（遠景）それぞれに焦点を合わせた2枚の画像から、自由に焦点合わせを変化させる手法を提案しています。ピントのぼけた画像からのにじみを正確に除去し、正しい輪郭を再現することができ、簡単に画像編集を楽しむことができます。



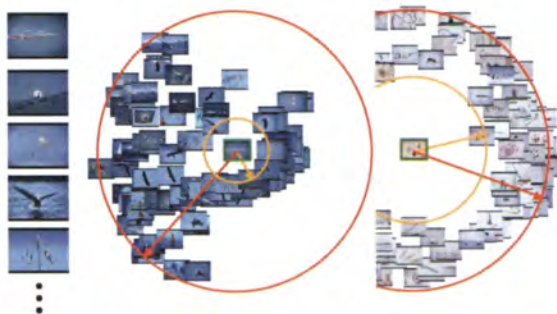
化学反応のコード表現と反応予測システムの開発

化学情報の表現・検索・体系化と、そこから有用な知識を導出し化学反応やスペクトルの予測へと発展させる研究を行っています。ニューラルネットワーク等の手法を使って、複雑かつ多様な化学現象をいかに表現・体系化し、予測へと結びつけるかがポイントです。



検索結果の示差性に着目したマルチメディア画像の高速検索法

「似た画像を捜したい」といったマルチメディア情報検索では、探索集合の中にたまたまそのような画像があればよいのですが、運が悪いと似た画像の存在しない場合があります。探索先中にどのくらい結果を満たすものがあるかを予測し、それが少ない場合には無駄な検索を避けることで、システムの効率化をはかることができます。



マルチメディア実験室

マルチメディア関連の各種実験を行うための専用室です。防音室では各種音響の採取ができます。また高精細カメラや高速度カメラを使っての特殊画像入力や、高度な編集処理を行うことができます。



知能システム研究系

人間の活動を始めとして自然界に見られる各種の知的活動を分析することによって、知的な振る舞いが可能なシステムや計算機と人間が適切に協調して問題に対処できるシステムの構築方法についての研究を行います。これらの研究を通じて、人間の知的な活動を支援・代行するためのシステムの構築を目指します。

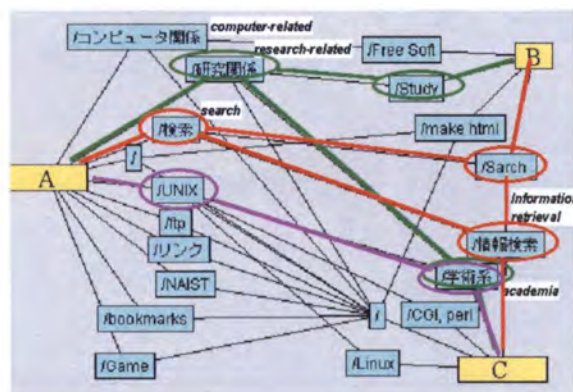
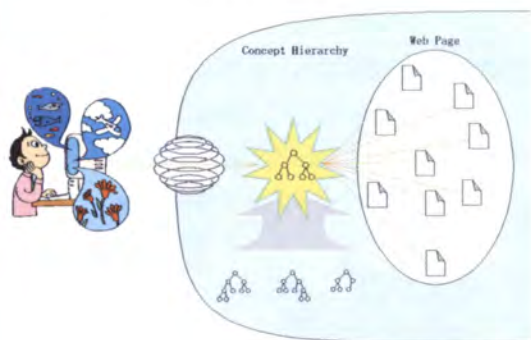
遠隔教育環境の研究

地理的・時間的に制約されない公平な教育の機会を提供する手段として遠隔教育は非常に重要です。同期・非同期的方法を利用し、協調学習を活用した高等教育を対象とした統合的な高度遠隔教育環境の研究をしています。



知識共生プロジェクト

新しい情報流通の仕組みを実現するためにインターネットに分散する知識を活用する知識共生の研究を進めています。例えば、分散するインターネットディレクトリ間の関係を発見するアルゴリズムを研究しています。



◆知識処理研究部門

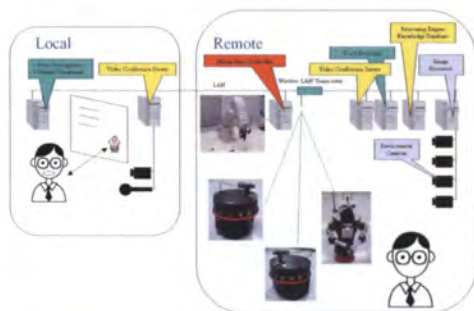
◆計算知能研究部門

◆人間機械協調研究部門

◆ロボティクス研究部門 (客員部門)

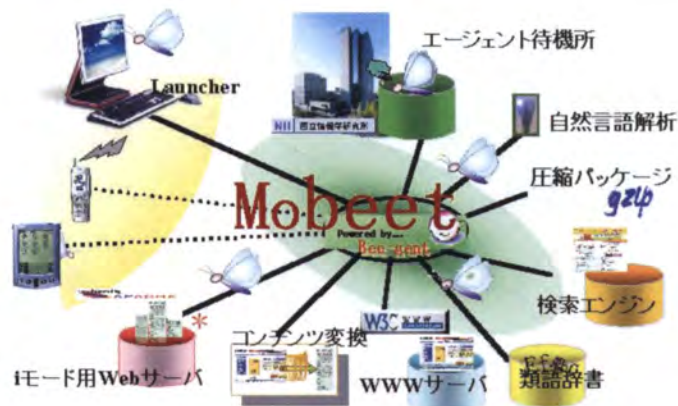
共生ロボットの研究

共生情報システム (SIS) 研究の一環として、人とロボットが自然に共存する環境を実現するために、人型自律ロボット、協調ロボット、ビジョン・音声対話・意図理解による知的インタフェース、知識処理をベースとした分散エージェント技術等について研究しています。



Web情報収集エージェントの研究

モバイルエージェントが利用者に代わって、移動して情報を検索・収集する仕組みについて研究しています。その一環として携帯電話からでも利用可能なMobeetを一般公開しています (<http://mobeetex.nii.ac.jp/>)。



ネットワーク・コミュニティの研究

ネットワークでの人々のコミュニティ活動を支援する仕組みについて研究しています。例えばブックマークを利用した人間間の関係を発見するシステムの開発をしています。

研究内容について詳しくは<http://research.nii.ac.jp/>をご覧ください。

人間・社会情報研究系

社会環境における情報の問題について研究します。社会における人間と情報との関わり、情報の流通・管理・利用の在り方、情報に関する社会的・制度的な問題などについて研究を行い、人文・社会科学の観点から情報学の体系化を目指します。

- ◆情報管理学研究部門
- ◆情報利用学研究部門
- ◆情報図書館学研究部門
- ◆情報制度論研究部門

機械 翻訳 [x CONTROL [BECOME [y BE AT z]]

修飾

機械 操作 [x ACT ON y]

内項

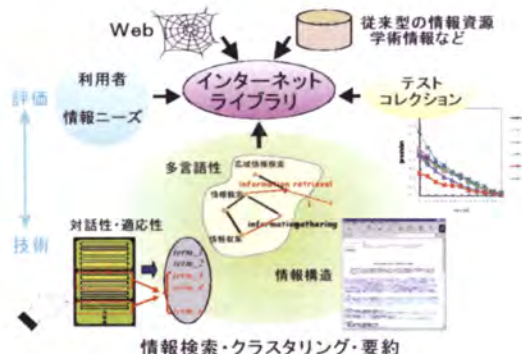
複合語の解析モデルの研究

言葉の概念をコンピュータ上でどのように表そうか？その出発点として、文章の凝縮である複合名詞を対象に、概念の記述法を探り、言葉のルールを探索します。

情報検索・クラスタリング・要約の研究

- ・テキスト構造を用いた情報検索と要約の研究意見と事実を区別した検索、文書の拾い読み
- ・ユーザ適応型クラスタ分類法の研究
- ・システムとの対話を通じた情報探索の支援
- ・従来型の学術情報ツールとWebの統合の研究
- ・多言語シソーラスの自動構築、多言語情報アクセス
- ・情報検索システムの評価

※構築した検索実験用テストコレクションは、研究目的で公開しています。



情報制度論

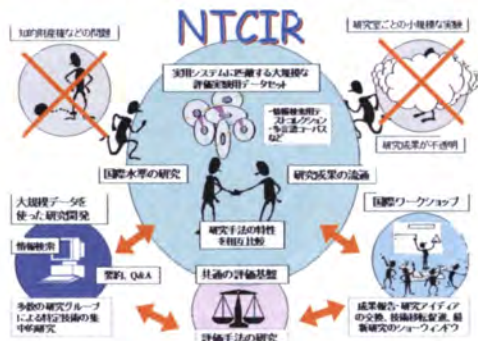
紙幣や硬貨に代わってデジタルデータがお金になる電子マネーの登場は、インターネット・ショッピングやモバイル・コマースを実現して生活を便利にします。安心して電子商取引が行われる環境を整えるため、プライバシーやサイバーセキュリティなど情報制度上の課題を研究します。



NTCIR (エンティサイル): 情報検索・テキスト要約技術の国際評価会議

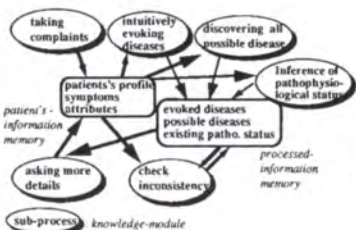
共通の研究課題について、共通の大規模な実験用データセットを用いて、国内外の多数の研究グループが研究を進め、その成果の比較・検討を通して互いに学び合う、新しいスタイルの国際的共同研究です。1998/99年は6カ国33グループ、2000/01年は8カ国45グループが参加しました。

<http://research.nii.ac.jp/ntcir/>



分散知識ベースの医療システムへの応用

オブジェクト指向モデル技法で医療診断のための分散知識ベースを構築する研究です。



研究内容について詳しくは<http://research.nii.ac.jp/>をご覧ください。

学術研究情報研究系

学術研究には、各分野で様々な情報が必要とされ、また、研究の中から新たな学術情報が生産・発信されて行きます。こうした情報の役割や、それを効果的に流通させるようなシステムについて研究します。これにより、「学術情報基盤の高度化」を進めて、学術情報のための情報学の確立を目指します。

◆人文社会系研究情報研究部門

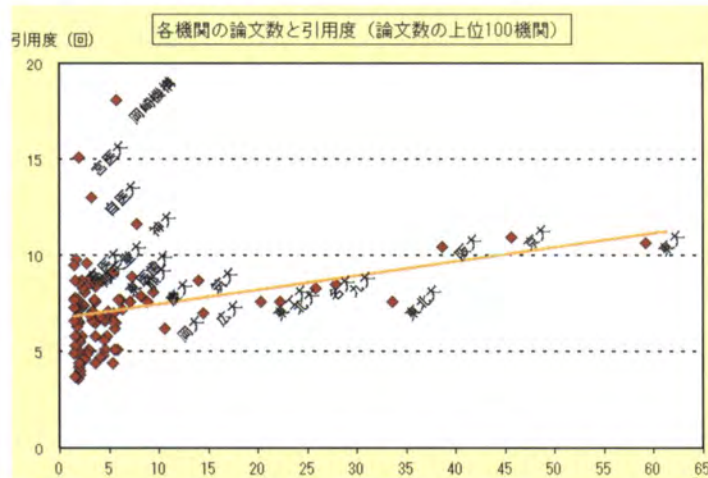
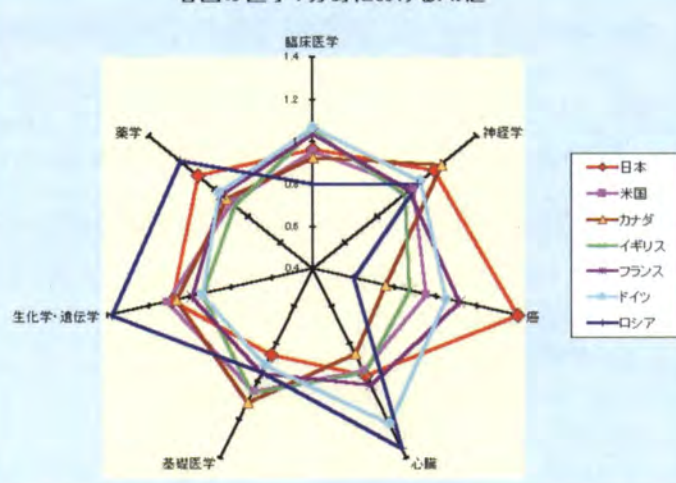
◆理工系研究情報研究部門

◆生物系研究情報研究部門

学術文献データベースからみた各国の研究の動向

学術研究の参考にするために、論文抄録の大規模なデータベースが作成されており、国立情報学研究所でもサービスをしています。これには、論文を検索するという普通の利用法のほかに、データベース全体に高度な統計的处理を施すことで、学術研究の動向に関する様々なことが見えてきます。

各国の医学7分野におけるAI値



論文の引用度数等による大学別の特性分析

引用索引データベースを利用し、論文の引用数からみた国別、機関別等の活動度を分析します。論文の引用実績は、論文の利用度合いの指標として注目されていますが、今後は特に日本の論文に対する分析が必要です。

情報関連研究の国際比較等

研究者ディレクトリなどのデータベースを利用して、内外における情報学研究の実態を明らかにして行きます。

このように、各種の学術情報データベースを利用しながら、各分野での学術研究の現状を分析し、有効な学術情報基盤、研究体制、学術政策の展開や研究のアカウンタビリティ増進に貢献します。

対応分析による3専門分野と16小分野分類の同時プロット



実証研究センター

情報学研究を総合的に展開するために必要な実証・実用化研究を、国立情報学研究所の各組織、及び、大学、国立試験研究機関、民間研究機関等との連携により推進し、研究成果を効果的に社会や学術情報基盤に還元するとともに、そこから新たな研究課題や動機をフィードバックする実践的な研究を目指します。

個別の大学や研究系では対応できないテストベッドやプロトタイプ開発環境を整備し、共同研究や学術情報基盤開発などをプロジェクトとして効率的に推進する共同利用施設の役割を担います。

実証研究推進室は超高速ネットワークやオンライ

ンジャーナル等のテストベッドや学術情報基盤の開発、共同研究企画推進室は共同研究についてそれぞれのプロジェクトを企画立案します。さらに各プロジェクトに対応した客員の各研究室や各研究系、及び、外部の研究者と連携して、開発・事業部の支援の下、プロジェクトの推進を行います。

◆実証研究推進室

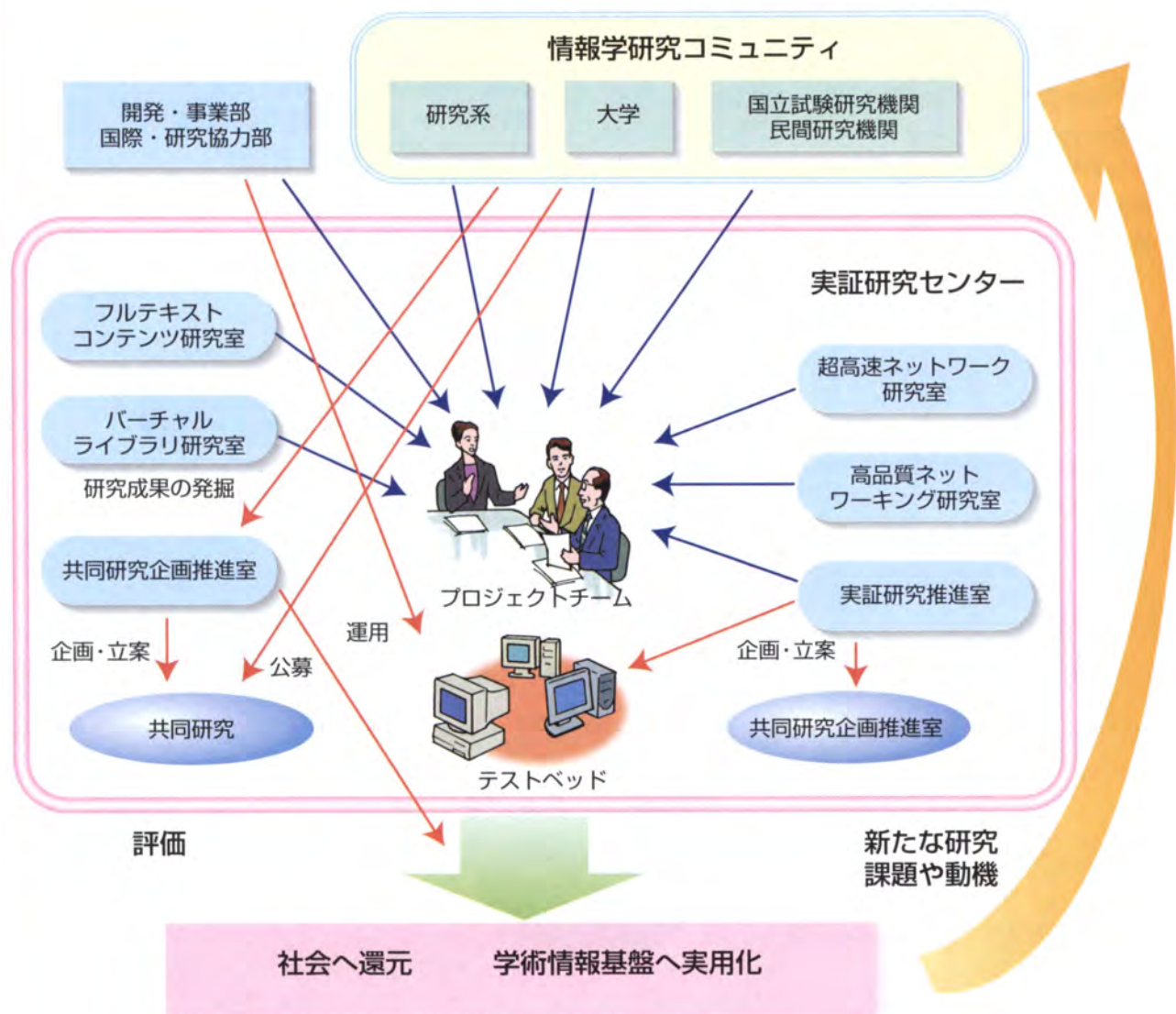
◆共同研究企画推進室

◆超高速ネットワーク研究室（客員部門）

◆高品質ネットワーキング研究室（客員部門）

◆フルテキストコンテンツ研究室（客員部門）

◆バーチャルライブラリ研究室（客員部門）



情報学資源研究センター

背景

デジタル化される情報の増大と多様化に伴い、情報の内容(コンテンツ)に注目が集まり、膨大で多様な情報を統合する研究が盛んになっています。情報学の研究の多くがこのような情報資源の処理や活用に関係しています。ここでのいう情報資源とは、コンテンツそのものはもちろん、その処理ソフトウェアも含みます。情報学の研究を拡大するには、コンテンツの開発、処理ソフトウェアの研究、情報のデジタル化を進める際の標準化など、様々な視点からの情報資源の整備が重要です。

ミッション

情報学資源研究センターは、

1. コンテンツを中心とする情報資源に関わる研究の推進
2. 情報学の研究を推進する上で必要な情報資源の収集と提供
3. 情報資源を使う共同研究などの推進

を行うために研究所内に設置された研究施設です。情報学の研究に必要な大規模なコンテンツやそれを扱うソフトウェアの開発、コンテンツ開発のための標準などの情報資源に関する研究を、所内の各組織や大学、産業界等と協力して推進していきます。

組織

センター内には現在二つの部門があります。常勤の資源構築利用推進室では、様々なプロジェクトの企画運営と情報資源に関わる研究を行っています。客員部門のデータコレクション研究室では、多言語テキストの情報検索に必要なテストコレクションの開発とこれを共同利用するワークショップの開催を進めています。

◆資源構築利用推進室

◆データコレクション研究室(客員部門)

プロジェクト等

センターでは次のような共同研究プロジェクトの企画運営や関連するワークショップ、国際会議を企画しています。

- 情報検索システムの評価用大規模テストコレクションの構築及び、これを用いた評価型ワークショップ(NTCIRワークショップ)
- 語彙・語構成研究を考慮した言語コーパス作成と評価
- 映像メディア高度解析処理の評価を可能にするメタデータ付き映像コレクションの構築
- 2001年ダブリンコア・メタデータおよびその応用に関する国際会議



研究協力／大学院教育

大学院教育

◆特別共同利用研究員(受託大学院生)

国立情報学研究所は、大学共同利用機関としての研究活動の充実と教育の発展に資するため、大学院学生を特別共同利用研究員として受け入れています。平成12年度は、国立大学から博士課程1名、修士課程2名、計3名の大学院学生の研究指導を行いました。

◆大学院教育への協力

国立情報学研究所は、豊富な学術情報データベースの研究業績や情報通信インフラの研究業績に基づき、東京大学大学院情報理工学系研究科及び図書館情報大学情報

メディア研究科の大学院教育に協力しています。

◆大学院情報学専攻(仮称)の設置

国立情報学研究所は、その特色である情報学の包括的研究体制、学術情報サービス事業と研究開発を一体のものとして行う実践的研究環境を活かし、広い視野と高度な専門知識を持つ新しいタイプの情報学研究者・高度専門家を養成することを目的として、平成14年4月に総合研究大学院大学の数物科学研究科に情報学専攻(仮称)を設置する予定です。

国際交流

◆外国人研究員の受入れ(平成12年度)

氏名・所属・国籍	研究課題	招へい期間
PARADIS, François (オーストラリア国立研究機構CSIRO研究員 カナダ)	カスタマイズド情報検索・提供システムの研究	平成12年5月～ 平成12年10月
ANGELINO, Henri (トゥールーズ国立理工科学院教授 フランス共和国)	アジア・太平洋地域における超高速情報基盤と技術政策の調査・研究	平成12年12月～ 平成13年3月(～平成13年11月)
STEFANUK, Vadim Lvovitch (ロシア科学アカデミー情報伝送研究所教授 ロシア連邦)	知能システムの研究	平成13年1月～ 平成13年3月

◆外国人来訪者の受入れ(平成12年度) 119人

◆国際研究集会派遣研究員(平成12年度) 3人

共同研究(平成12年度)

国立情報学研究所は、大学共同利用機関として、全国の国公立大学等の研究者に交流、研究の場を提供し、積極的に共同研究を行っています。平成12年度は、15件の共同研究を実施しました。

日本における国際書誌調整の研究	超高速インターネット技術に関する研究
拡張型実時間分散OSの研究	大規模テストコレクションの構築と情報検索システムの比較評価
科学技術論文の蓄積・処理とその検索支援に関する基礎研究	進化型ソフトウェア・アーキテクチャの研究
文書間の関係の可視化によるテストコレクションの特徴分析	分散型地理画像における多次元データ表現とアクセス方法に関する研究(The GLOGEREQプロジェクト(GLObal GEographical REsource for Query Facility))
電子情報メディアの活用と社会に関する研究	二言語コーパスからの日英対訳辞書自動構築と評価に関する研究
高等教育を対象とするInternetを用いた遠隔教育の研究	連想計算エンジンGETAによる大規模文書分析手法の研究
カスタム化可能なハイパメディア配信システムの研究	
統合メディア処理システム構築とその基礎技術に関する研究	
文書構造を用いた情報検索アルゴリズムと評価に関する研究	

科学研究費補助金(平成12年度)

研究種目	件数	交付決定額(千円)
科学研究費		
特別研究促進費(1)	1	4,900
基盤研究(A)(2)	3	24,900
基盤研究(B)(1)	1	6,000
基盤研究(B)(2)	4	19,300
基盤研究(C)(2)	1	800
奨励研究(A)	9	8,676
研究成果公開促進費	7	134,500
計	26	199,076

産学連携(平成12年度)

◆民間等との共同研究

件数	受入決定額(千円)
5	計 14,280

◆受託研究

件数	受入決定額(千円)
8	計 106,684

◆奨学寄附金

件数	受入決定額(千円)
25	計 33,184

研究成果の普及

国立情報学研究所では、情報学に関する研究成果を幅広く社会に還元するため、講演会・シンポジウム等の開催や出版物・広報誌の刊行などを行っています。

公開講演会の開催

研究所が進めている研究開発や事業活動等に関連した今日的課題をテーマとして発表・討議する「国立情報学研究所公開講演会」を関西会場と東京会場とで開催しています。

シンポジウム・研究会等の開催

情報学研究について、国内外の研究者と幅広い視点から討議するシンポジウムやワークショップを開催しています。また、情報学研究に関心のある研究者・技術者の交流の場として「NII定例研究会」を毎月開催し、研究所内外の研究者による研究発表等を行っています。開かれた研究所として外部にも公開しています。



公開講演会(西会場:国立京都国際会館 平成12年11月)



←パネル発表について討議する参加者 (NTCIRワークショップ)



NTCIRワークショップ(平成13年3月)



NII定例研究会

出版物の刊行

研究所の研究成果を図書や定期刊行物として公表します。

◆NII Journal

研究所の研究活動の成果等を掲載する論文誌として年2回刊行しています。関係各機関へ送付するとともに、電子図書館サービス(NACSIS-ELS)及びオンラインジャーナル提供システム(NACSIS-OLJ)においても公開しています。

◆情報学シリーズ

研究所教官の研究内容や研究所が開催する講演会等の発表内容をまとめた単行書を国立情報学研究所監修の下に「情報学シリーズ」として刊行しています。

広報誌の刊行

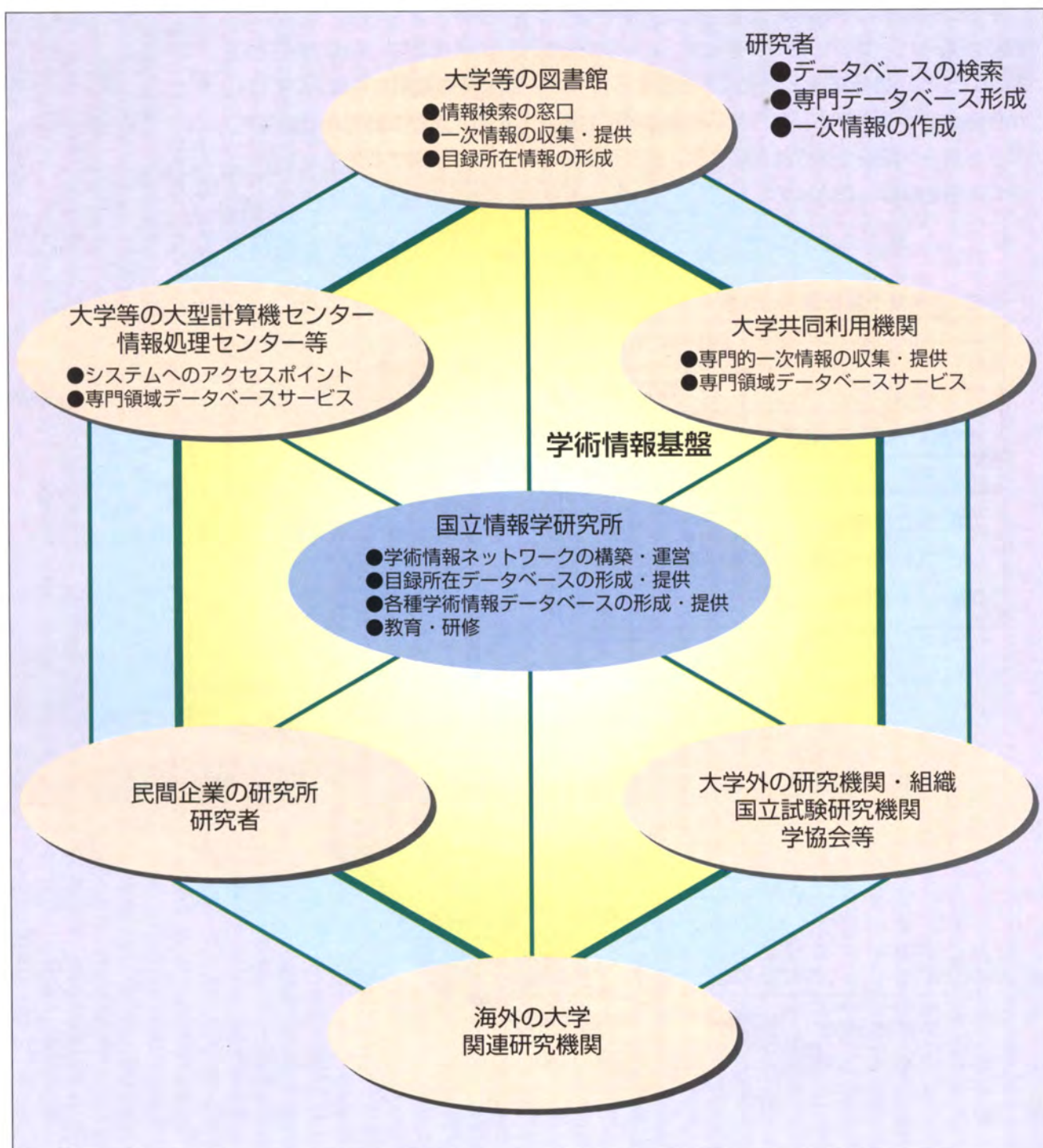
研究所の研究及び開発・事業等の活動を広く紹介する広報誌として「NII News」を隔月で刊行・配布しています。



国立情報学研究所における開発・事業について

国立情報学研究所の主要な設置目的の一つは、学術情報の流通のための先端的な基盤の開発と整備を行うことです。学術研究を推進する上で必要とされる学術情報基盤は、ネットワーク、コンテンツ及びアプリケーションの全ての面において、極めて高い先端性を備えたものであることが求められています。このことは、情報学研究の成果を速やかに学術情報基盤の整備・充実に反映させることによって実現されるものです。情報学研究の将来を考えると、これら両面の活動をいわば車の両輪のように一体的に推進することが重要です。

国立情報学研究所では、学術情報基盤の構築・運用、大学図書館や学協会等との連携・協力、システム開発とその運用に関連する業務を行う開発・事業部を置き、研究組織との密接な連携・協力の下に、研究者が学術情報基盤の整備に参画できる組織・体制を構築し、得られた研究成果を実証的に適用・実用化することにより、我が国の学術情報基盤の整備・強化に貢献します。



学術情報ネットワーク

学術情報ネットワーク(SINET)は、日本全国の大学、研究機関等における情報学の研究及び学術情報の流通の促進を図るため、全国にノード（ネットワーク接続拠点）を設置し、大学等の研究機関を接続した学術研究のための情報ネットワークです。ノード間は最高405Mbpsの高速専用回線で接続されており、平成13年4月末現在763の機関が接続しています。

また、国際的な研究情報の流通の促進及び研究ネットワークとの連携を図るため、海外の超高速テストベッドネットワークである米国のAbileneや欧州のDANTE等と相互接続しています。一方、国内においては国立の研究機関等を接続する省際研究情報ネットワーク(IMnet)や民間ネットワークと相互接続し、産・官・学の研究情報の流通の促進を図っています。

学術研究の新たな展開として、高エネルギー物理学、宇宙・天文科学、遺伝子情報及びスーパーコンピュータ連動(GRID)等の先端的学術研究の中心的な研究機関を、10Gbpsの超高速・広帯域で接続するスーパーSINETの運用を平成14年1月から開始する予定です。さらなる高速化等に対応するため、世界の最先端の超高速ネットワーク技術の研究開発により、光波長信号をそのまま伝送する光ネットワークの実現を目指しています。



平成13年度予算措置回線速度

国内回線	20~405Mbps
国際回線	2~450Mbps
スーパーSINET	10Gbps

- ★ 国立情報学研究所
- ★ スーパーSINETのノード機関
- ノード機関





学術情報ネットワーク加入機関数 (平成13年4月末現在)

国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門 学校	大学共同 利用機関	その他	合 計
95	52	290	100	43	15	168	763

目録所在情報サービス

目録所在情報サービスには、目録システムと図書館間相互貸借システムがあります。

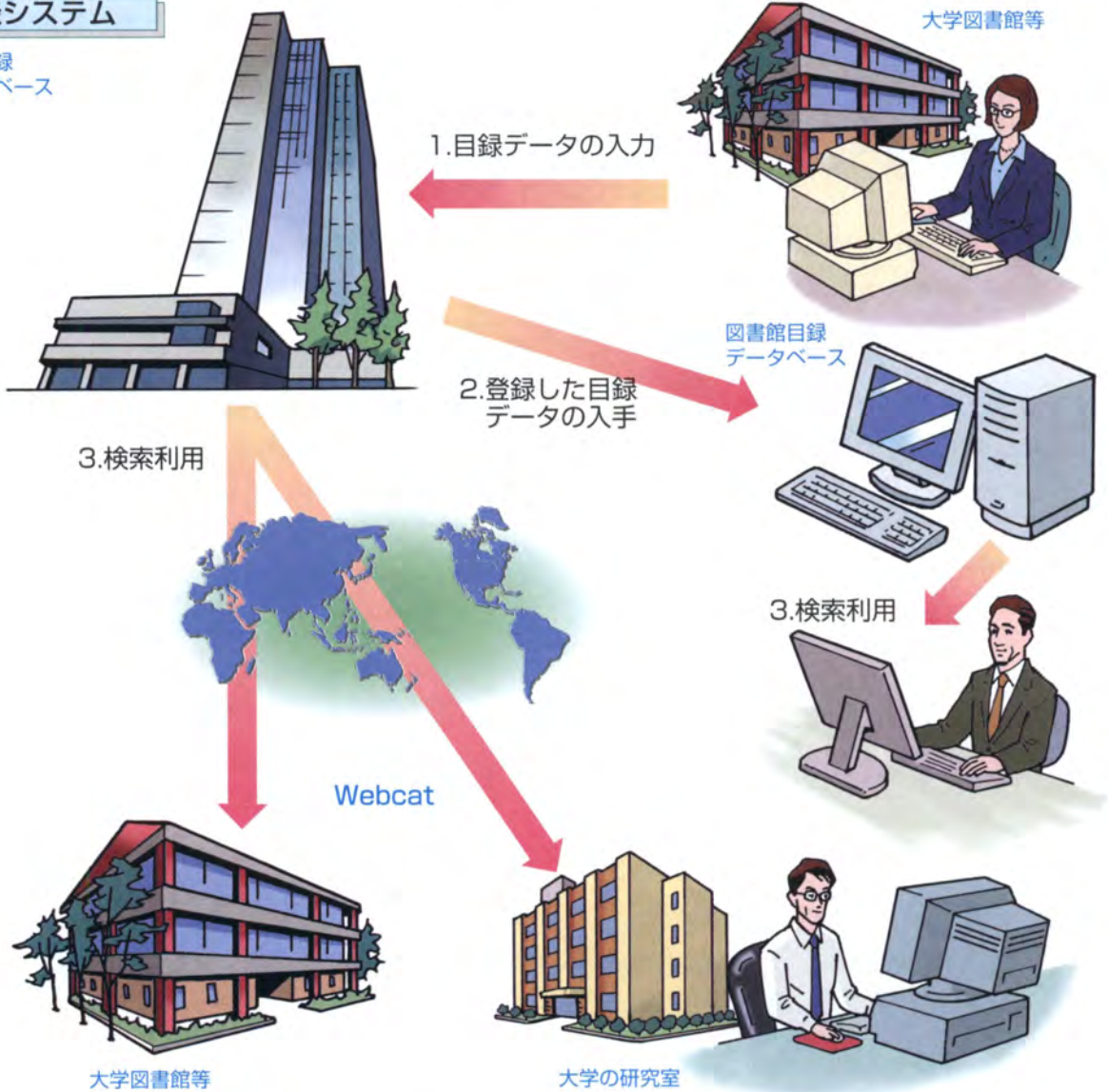
目録システム(NACISIS-CAT)

目録システム(NACISIS-CAT:CATaloging)は、我が国の研究者の研究活動を支援するため、全国の大学図書館等にどのような学術文献(図書・雑誌)が所蔵されているかが即座に分かる総合目録データベースを構築するシステムです。この目録システムでは、データベースを効率的に形成するため、標準的な目録データ(MARC)を参考にするとともに、全国の大学図書館等によるオンラインの共同分担入力が行われています。

このようにして構築された総合目録データベースは、WWW検索サービス(Webcat)で誰でも自由に利用できます。

目録システム

総合目録
データベース



目録所在情報サービス参加機関数

(平成13年5月末現在)

機関種別	機関数
国立大学	99
公立大学	70
私立大学	413
大学共同利用機関等	14
短期大学・高等専門学校	152
その他	109
計	857

データベース登録状況

(平成13年5月末現在)

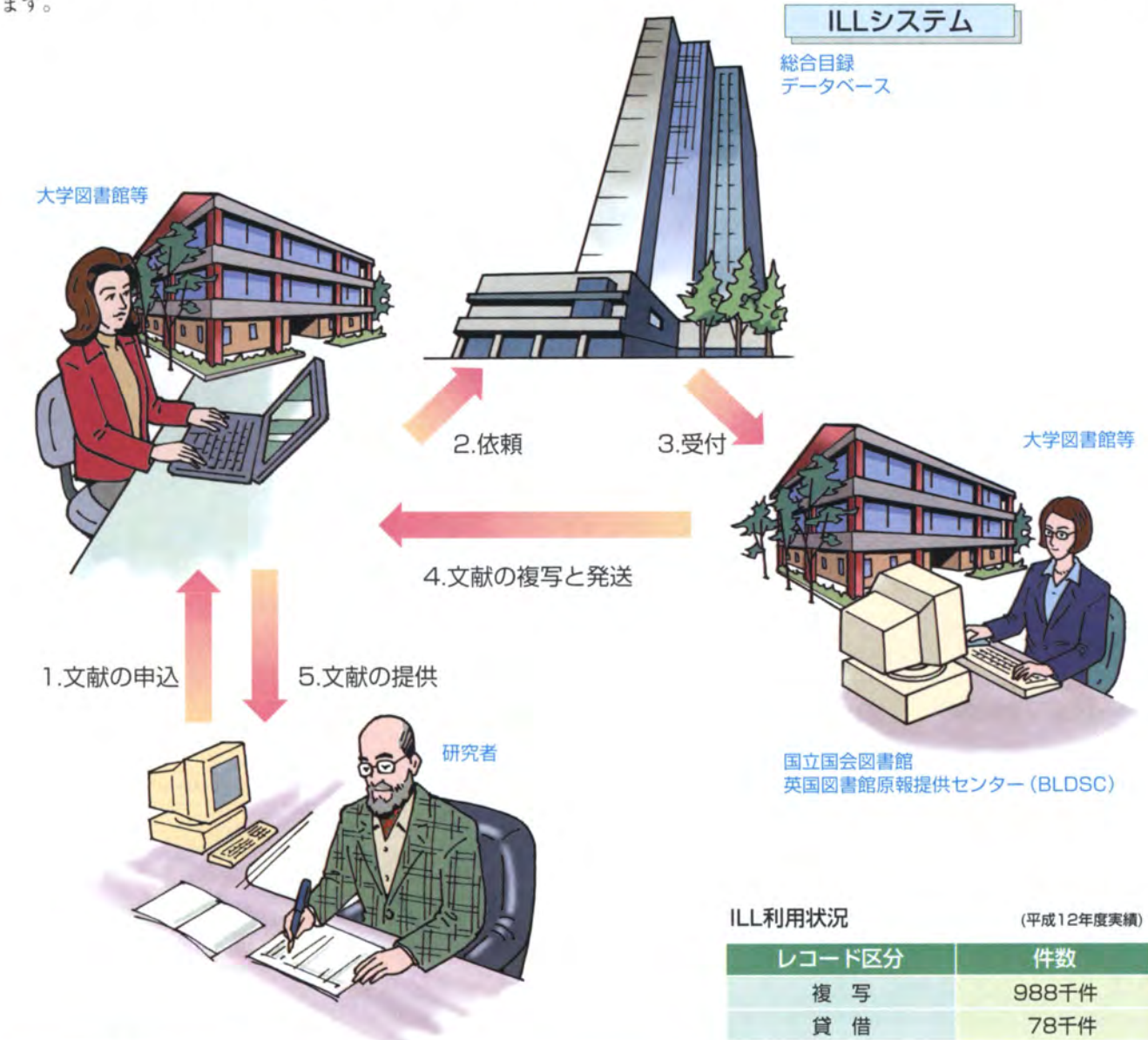
データベース名		件数
図書	書誌	5,752千件
	所蔵	53,112千件
雑誌	書誌	239千件
	所蔵	3,575千件

図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)

図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL:InterLibrary Loan)は、大学等の研究者に学術文献を提供するため、図書館どうしが図書や雑誌論文を相互に利用し合うための連絡業務を支援するシステムです。

目録システムで構築される最新の総合目録データベースを活用することにより、業務の効率化と、利用者への文献情報提供の迅速化を図っています。

また、このシステムから国立国会図書館や英国図書館原報提供センター(BLDSC)へ文献提供の依頼をすることもできます。



ILL利用状況 (平成12年度実績)

レコード区分	件数
複写	988千件
貸借	78千件

Webcat

<http://webcat.nii.ac.jp/>

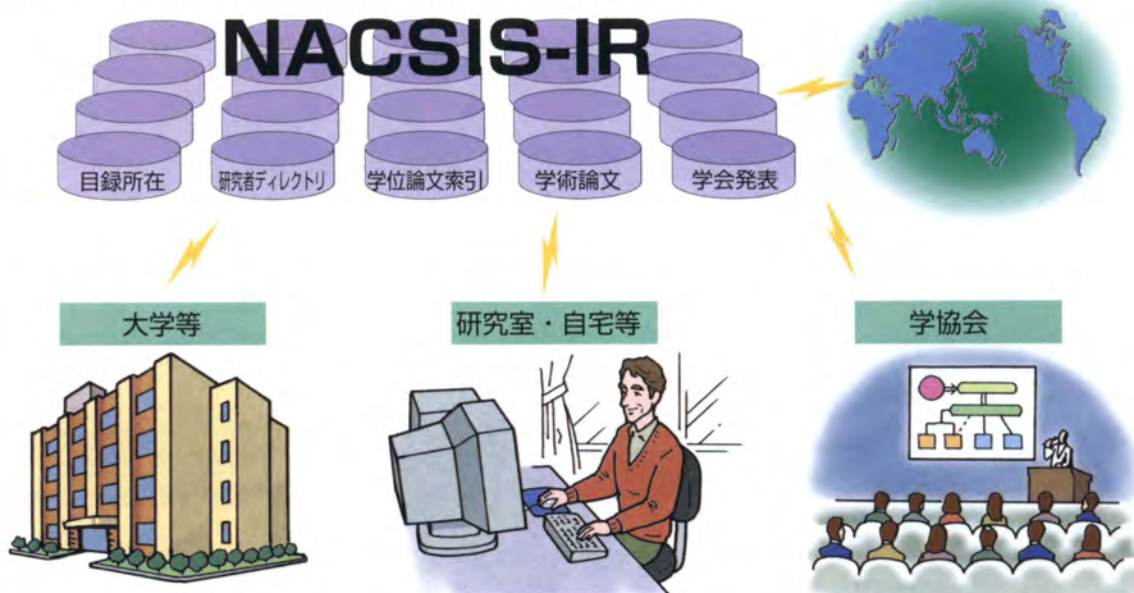
Webcat利用状況 (平成12年度実績)

Webcat利用回数(検索件数)
13,013千回



情報検索サービス(NACSIS-IR:Information Retrieval)は、学術研究情報を迅速かつ的確に研究者に提供することを目的として、人文・社会・自然科学の分野にわたって約1億件の学術情報を蓄積し、オンラインにより提供しています。

国立情報学研究所におけるデータベースは、本研究所が企画・作成したもの(作成データベース)、海外等のデータベース作成機関から導入したもの(導入データベース)、他の機関・研究者等が作成したものを受け入れたもの(受入データベース)の3種類に分類されます。



収録状況 (平成13年5月現在)

提供データベース	収録件数
58種	105,982千件

利用状況

(平成12年度実績)

登録者数	利用回数	接続時間	表示件数
7,882人	67千回	168千分	1,450千件

情報検索サービスの利用について

利用者の範囲

- ・国公立等の大学・短期大学・高等専門学校・大学共同利用機関等並びに文部科学省及び文化庁の施設等機関等の教職員・大学院学生・大学院研究生・大学専攻科学生
- ・学会の正会員・国公立試験研究機関及び特殊法人・学術研究法人の研究職員及び図書館職員、海外の高等教育・研究機関の研究職員等

利用料金

- ・作成・導入データベースは、接続料1分間50円、ヒット料1件当たり13円
- ・目録系・受入データベースは、接続料1回接続ごとに30円

利用時間

- ・原則として24時間(ただし、毎週月曜日8:00~9:00、3月31日及びシステム保守のため必要な日時を除く)

■作成データベース

- 現行法令データベース
- 経済学文献索引データベース
- 学術論文データベース（理学，化学，電子）
- 臨床症例データベース
- 科学研究費補助金研究成果概要データベース
- 科学研究費補助金採択課題データベース
- 学位論文索引データベース
- 学術関係会議等開催情報（日本学術会議編）
- 学術雑誌目次速報データベース
- 引用文献索引データベース
- 学会発表データベース
- 研究者ディレクトリ
- データベースディレクトリ
- 民間助成研究成果概要データベース
- 目録所在情報データベース（図書，雑誌）

■導入データベース

- Arts and Humanities Citation Index
- Social Sciences Citation Index
- Harvard Business Review
- Science Citation Index Expanded
- 国会図書館科学技術欧文会議録データベース
- ISTP&B
- ISTP
- MathSci
- COMPENDEX PLUS
- 国会図書館洋図書目録データベース
- 雑誌記事索引データベース

民間助成決定課題データベース

- JPMARC
- LCMARC(Books,Serials)

■受入データベース

- 大型コレクションディレクトリ
- 文化財科学文献データベース
- 印度学・仏教学研究ディレクトリ
- 現代邦楽作品データベース
- 社会学文献情報データベース
- 教科教育実践学関係資料（国語科）データベース
- 維新史料綱要データベース
- 古文書目録データベース
- 北海道大学北方資料総合目録データベース
- アジア歴史研究者ディレクトリ
- 中央アジア研究文献索引データベース
- 中東・イスラーム研究文献索引データベース
- スラブ地域研究文献データベース
- 日本独文学会文献情報データベース
- ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース
- 日本アメリカ研究文献情報データベース
- 化学センサーデータベース
- 化学と教育誌データベース
- RAMB IOS
- 霊長類学文献索引データベース
- 学協会集会スケジュール（日本工学会編）
- 日本建築学会文献索引データベース
- 日本の医学会会議録データベース
- 地理学文献データベース
- 家政学文献索引データベース

オンライン学術用語集

<http://sciterm.nii.ac.jp/>

学術研究の成果を広く流通させ、正しく評価・検証が行われるためには、専門的
用語(学術用語)の意味の定義や用法等について、研究者間で共通の認識が必要です。
このため、各学問分野で学術用語の標準化が進められており、その成果は『学術用
語集』として刊行されています。「オンライン学術用語集」(NACSIS-Sciterm)では、
『学術用語集』に収録されている学術用語を著作権者である文部科学省と各学協会
の許諾を得て、インターネットを通じて無料で検索できるように
しています。主な収録項目は、用語(和・ローマ字読み・カナ読み・
洋)、品詞、参照先用語、備考です。

収録状況		利用状況
(平成13年5月現在)		(平成12年度実績)
収録編数	収録用語数	年間アクセス回数
24編	108千語	70千回

※平成12年7月サービス開始



学協会情報発信サービス

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/>

学協会情報発信サービスとして、学協会のホームページへのリンク集であるAcademic Soc
iety Home Villageを運営しています。

このサービスでは、掲載されているホームページの内容に関して、任意のキーワードによる検
索ツールを用意しており、学協会が発信する学術研究情報を効率的に入手することができます。

また、掲載順は、学協会名称の五十音順及び日本学術会議による専門分野の順になっています。

収録状況		利用状況
(平成13年5月現在)		(平成12年度実績)
参加学協会数	内訳	年間アクセス回数
628学会	ホームページ構築サービス 495学会	490千回
	リンクサービス 133学会	



電子図書館サービス(NACSIS-ELS:Electronic Library Service)は、学術雑誌のページをそのまま電子化し、雑誌情報とともに検索できるようにした情報サービスで、インターネット上で利用できます。

研究者の持つコンピュータ上で、タイトルや著者名等の情報を手がかりに論文を得ることができるほか、雑誌の表紙や目次から記事を探し、ページをめくるように読んでいくこともできます。また、プリンタへの高品質の印刷も可能です。

現在の収録状況は、日本の学協会の発行する学術雑誌が中心で、協力学協会の増大により提供可能な情報の拡充に努めています。

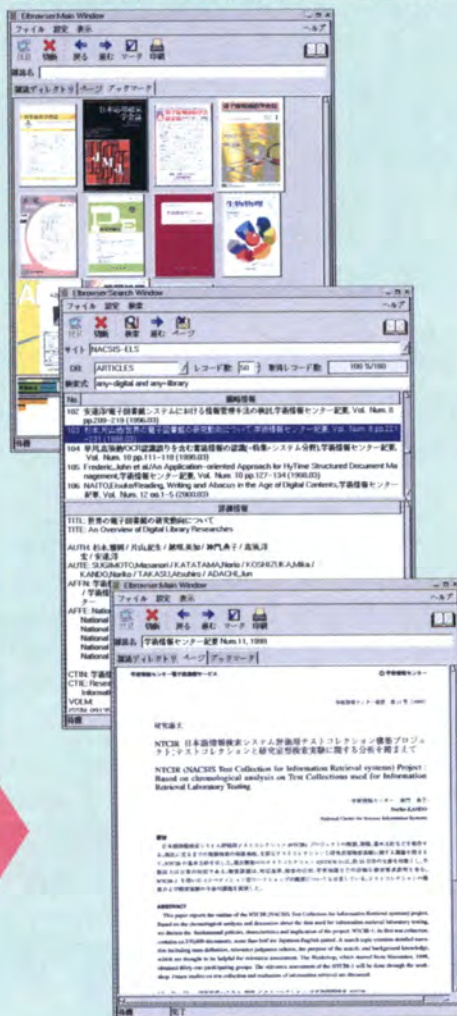
なお、電子図書館サービスの一環として、平成12年度までは英国物理学会(IOP)刊行の電子ジャーナル(35誌)、平成13年度からはOxford University Press(OUP)刊行の電子ジャーナル(171誌)を試験提供しています。

学協会



国立情報学研究所

電子図書館サービス (NACSIS-ELS)



研究者
大学図書館等

インターネット

ワークステーション

提供

パソコン

学会誌・論文誌

電子化

国内学協会誌

1)利用状況

(平成12年度実績)

登録者数	利用回数	画像表示ページ数	画像印刷ページ数
3,840人	97千回*	39千ページ	55千ページ

*平成12年9月から

2)収録状況

(平成13年5月現在)

参加学協会数	収録雑誌数	収録論文数	収録画像ページ数
142学会	310誌	685千論文	2,450千ページ

海外電子ジャーナルサービス(試行)

1)IOP利用状況

(平成12年度実績)

利用登録機関数	利用回数
250	400千回

2)OUP利用状況 (平成13年5月現在)

利用登録機関数
445

学協会・大学が刊行する学術雑誌のオンラインジャーナル形態による出版を支援するため、編集工程を電子化し、オンライン上で出版する「オンラインジャーナル編集・出版システム」(NACSIS-OLJ:OnLine Journal)の開発と構築を行っています。システムは次の二つに大きく分かります。

(1) 電子編集システム

原稿の執筆・投稿から、受付・査読・編集・レイアウトを経て、印刷版下と電子原稿を作成するまでの一連の工程管理及び文書処理を行うシステムで、各学協会・大学において運用します。

(2) オンラインジャーナル提供システム

インターネットを介して、オンラインジャーナル形態の学術雑誌を提供するシステムで、国立情報学研究所において運用します。

学協会・大学等 電子編集システム





The figure shows three screenshots of the NACSIS-OLJ electronic editing system interface. The top screenshot is the '投稿者入力[新規]' (New Submission) form, which includes fields for author information, journal title, and a large text area for the abstract. The middle screenshot is the '査読者入力' (Reviewer Input) form, which includes a table for recording review results. The bottom screenshot is the '編集者入力' (Editor Input) form, which includes a table for recording editing results. Arrows labeled '投稿' (Submission), '査読' (Review), and '編集' (Editing) point from the respective illustrations to the corresponding screenshots.

国立情報学研究所 オンラインジャーナル提供システム



The figure shows three screenshots of the NACSIS-OLJ online journal provision system interface. The top screenshot shows the '雑誌リスト検索' (Journal List Search) page, which displays a list of journals with their titles, volumes, and issue numbers. The middle screenshot shows the '雑誌目次検索' (Journal Table of Contents Search) page, which displays the table of contents for a specific journal issue. The bottom screenshot shows the '雑誌本文検索' (Journal Full-text Search) page, which displays the full-text article for a specific journal issue. An arrow labeled '閲覧' (Browse) points from the illustration of a person at a laptop to the corresponding screenshots.

学術研究活動等に関する調査

大学・研究機関の研究活動に関する情報を収集し、データベース化して提供・発信することは、研究開発の高度化、大学・研究機関間や産業界・地域社会との連携・交流、国際的な情報発信を推進する上で不可欠であると同時に、優れた成果を生み出すための研究評価、研究活動に関する情報の公開、国民に対する説明責任と理解増進、研究成果の社会への還元などの観点からも重要な意義を有するものです。国立情報学研究所では、こうしたニーズに応えるため、我が国の大学・研究機関及び研究者の協力を得て、学術研究活動等に関する調査を行い、その結果をデータベース化して公開・提供しています。また、調査結果は、我が国の学術研究動向・水準などに関する研究や、学術・科学技術及び高等教育政策の企画・立案のための基礎データとして利用されています。

学術研究活動に関する調査／研究者ディレクトリ

我が国の大学・研究機関に所属する研究者を対象に「学術研究活動に関する調査」を毎年実施し、その最新情報で「研究者ディレクトリ」を作成し、情報検索サービス(NACSIS-IR)で公開しています。これらの情報は、『研究者・研究課題総覧』(書籍版、CD-ROM版)として刊行しているほか、主要なデータを「研究活動資源ディレクトリ」にも収録し、広く一般に提供しています。また、各大学等にデータを還元する個別版データの提供も行っています。

収録データ

平成12年度調査に基づく研究者情報
161,961件(人)



研究者・研究課題総覧

大学等の研究活動を総覧するデータベース構築のための調査／研究活動資源ディレクトリ：NACSIS-DiRR

<http://dirr.nii.ac.jp/>

我が国の大学・研究機関や研究者に関する情報を広く提供し、優れた研究者の確保、研究資源の効率的・効果的な配分、産学官の連携による共同研究や学際的な研究の促進を図ることを目的として、大学等の研究機関の研究者、研究課題、研究設備・資料等の研究資源に関する情報を調査し、その最新情報で「研究活動資源ディレクトリ(NACSIS-DiRR)」を作成し、インターネット(WWW)を通じて公開しています。このサービスは科学技術振興事業団との共同で実施しています。

収録データ

平成12年度調査に基づく
研究機関・課題情報13,448件
研究者情報117,567件(人)
研究資源情報2,187件



学術情報データベース実態調査／データベースディレクトリ

<http://www.nii.ac.jp/ir/dbdr/dbdr.html>

我が国で作成されている学術研究を目的としたデータベースに関する「学術情報データベース実態調査」を毎年実施し、その最新情報で「データベースディレクトリ」を作成し、情報検索サービス(NACSIS-IR)で公開しています。また、『学術情報データベース実態調査報告書』は、我が国の学術データベースの動向を把握する基礎資料となっています。

収録データ

平成12年度調査に基づくデータベース情報
約3,000件

国際事業の展開

学術研究水準の向上を図る上で、世界的規模で学術情報の流通を促進していくことが不可欠です。国立情報学研究所では、各種の学術情報サービスの国際展開を図るとともに、海外の大学・機関との連携・協力を進めています。これにより、海外の大学・研究機関等が有する情報へのアクセスを改善するとともに、我が国の学術研究に関する情報を国際社会に発信し、国際的な学術情報の流通と標準化活動に貢献しています。

海外の日本研究機関・図書館との協力

欧州・アジアなど海外で日本語資料を扱う研究図書館や日本研究機関など、25の大学・機関が国立情報学研究所の目録システム(NACSIS-CAT)に参加しています。現在、これら海外の大学・機関により20万件以上の学術文献の所蔵登録が行われています。平成10年度からは、中国との学術情報交流プロジェクトを開始し、国際交流基金との協力により、北京日本学研究中心図書資料館の情報化支援を行っています。

海外の目録システム参加機関

英国図書館オリエンタル・コレクション部
ケンブリッジ大学図書館
オックスフォード大学ボドリアン図書館
シェフィールド大学東アジア研究部図書館
スターリング大学日本研究センター図書館
ロンドン大学東洋学部図書館
国際交流基金ロンドン日本語センター
大英博物館日本美術部門
デューズブルク大学東アジア研究所
ルーバンカトリック大学東アジア図書館
ハイデルベルク大学日本学研究室
チューリヒ大学東洋学部日本学科図書館
ストックホルム大学アジア図書館

ミュンヘン大学日本学科
国際交流基金ケルン日本文化会館
国際交流基金バンコック日本文化センター
北京日本学研究中心図書資料館
中国農業大学図書館
大連理工大学図書館
北京大学図書館
武漢大学図書館
南京大学図書館
中山大学図書館
吉林大学図書館
翰林大学校翰林科学院日本学研究所

学術情報サービスの国際展開

◆図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)

英国図書館原報提供センター(BLDSC)の相互貸借システム(ARTTel)と接続し、国内機関と同様の文献複写や現物貸借の申し込みが可能になっています。また、米国との間でも日米文化教育交流会議(カルコン)の提言を受けて、日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクトとして、図書館間相互貸借システムの実現に向けた検討を行っています。

◆情報検索サービス(NACSIS-IR)

海外の大学・研究機関に対して、国立情報学研究所が企画・作成したデータベースを中心にサービスを行っています。

◆電子図書館サービス(NACSIS-ELS)

海外の大学・研究機関に対して電子図書館サービスの提供を行っており、我が国の学協会が発行する学術雑誌を海外からも利用することが可能となっています。

国際事業プロジェクトの展開

国立情報学研究所では、前述の「中国との学術情報交流プロジェクト」や「日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト」のほか、タイとの国際回線を利用した「タイ・オンライン・プロジェクト」など、海外の大学・研究機関との連携・協力により、学術情報の国際的流通に関するワークショップの開催・参加や、情報化のための国際協力や研修プログラムなど、様々な国際事業プロジェクトを実施しています。



ベルリン日独センターでのワークショップ



タイ・オンライン・プロジェクト参加機関関係者の来訪

専門研修

大学等の学術研究機関において学術研究活動支援の中核的な役割を担う職員を養成するため、専門的かつ高度な知識と技術の修得を目的とした研修を実施しています。

◆国立情報学研究所セミナー

実際の研究活動を体験することで学術研究支援活動の中核となる人材を養成する研修

◆情報ネットワーク担当職員研修

機関内LAN等の構築・運用管理等に係る最新かつ高度な知識及び専門技術を修得する研修

◆総合目録データベース実務研修

目録所在情報サービス参加図書館等において指導的役割を担う人材を養成する研修

◆NACSIS-IRデータベース実務研修

NACSIS-IR等の情報検索サービスに関する利用説明会の企画・運営担当者を養成する研修



国立情報学研究所セミナー

講習会・利用説明会

目録所在情報サービスの業務担当者を対象とした講習会や、情報検索サービスの利用者を対象とした利用説明会を開催しています。また、受講機会の拡大を図る目的で、各大学図書館等との共催による地域講習会・利用説明会を開催しています。

講習会・利用説明会の種類は次のとおりです。

◆目録システム講習会

◆ILLシステム講習会

◆NACSIS-IR利用説明会

自習システムの提供

従来の集合型の講習会とは別に、インターネットを介して自習できる環境の整備を行って、担当者の学習機会の拡大を図っています。NACSIS-ILLを最初の対象として自習システム(NACSIS-SL)のサービスを開始しています。



NACSIS-ILL自習システム (NACSIS-ILL)

大学・学会等の利用者講習への支援活動

研究所の各サービスについて、大学・学会等が独自に実施する講習会等の事業に対して、講習用資料等の提供や事業のカリキュラム相談、利用者番号の貸与等の支援活動を行っています。

国際研修

関連機関と協力して、海外の学術研究機関の研究支援職員を対象とした研修を実施しています。



北京日本学研究所センター図書資料館員招聘研修

評議員・運営協議員・参与・名誉教授

評 議 員

事業計画その他の管理運営に関する重要事項について所長に助言します。

青 木 利 晴	株式会社NTTデータ代表取締役社長	熊 谷 信 昭	大阪大学名誉教授
井 口 洋 夫	東京大学名誉教授	古 在 由 秀	群馬県立ぐんま天文台長
石 井 米 雄	神田外語大学長	菅 原 寛 孝	高エネルギー加速器研究機構長
植之原 道行	多摩大学名誉教授	高 橋 潤 二 郎	慶應義塾常任理事
大 崎 仁	国立学校財務センター所長	天 満 美 智 子	津田塾大学名誉教授
大 塚 正 徳	東京医科歯科大学名誉教授	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
大 野 公 男	北海道情報大学長	松 野 陽 一	国文学研究資料館長
奥 島 孝 康	早稲田大学長	森 亘	東京大学名誉教授
木 村 孟	大学評価・学位授与機構長	吉 川 弘 之	日本学術会議会長
久 保 正 彰	東京大学名誉教授		

19名（五十音順）

運営協議員

共同研究計画に関する事項その他の研究所の運営に関する重要事項で所長が必要と認めるものについて所長の諮問に応じます。

有 川 節 夫	九州大学附属図書館長	佐 和 隆 光	国立情報学研究所企画調整官(副所長)
稲 垣 康 善	名古屋大学大学院工学研究科教授	小 野 欽 司	国立情報学研究所研究総主幹
井 上 如	学術情報センター名誉教授	濱 田 喬	国立情報学研究所国際・研究協力部長
黒 田 晴 雄	東京理科大学総合研究所教授	羽 鳥 光 俊	国立情報学研究所開発・事業部長
坂 内 正 夫	東京大学生産技術研究所長	浅 野 正 一 郎	国立情報学研究所情報基盤研究系研究主幹
清 水 龍 瑩	東京国際大学商学部教授	丸 山 勝 巳	国立情報学研究所ソフトウェア研究系研究主幹
高 木 幹 雄	東京理科大学基礎工学部教授	上 野 晴 樹	国立情報学研究所知能システム研究系研究主幹
土 居 範 久	慶應義塾大学理工学部教授	内 藤 衛 亮	国立情報学研究所人間・社会情報研究系研究主幹
山 田 尚 勇	東京大学名誉教授	根 岸 正 光	国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹
六 本 佳 平	放送大学教授		
若 林 克 己	群馬大学名誉教授		
	(以上五十音順)		

20名

参 与

情報学に関する研究並びに学術情報の流通のための基盤の開発及び整備等に関する諸問題について所長の諮問に応じます。

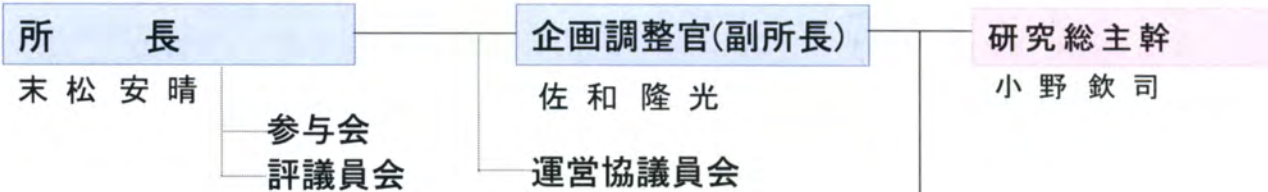
天 城 勲	(財)高等教育研究所理事長	福 村 見 夫	名古屋大学名誉教授
井内 慶次郎	(財)日本視聴覚教育協会会長	松 田 達 郎	国立極地研究所名誉教授
稲 田 獻 一	大阪大学名誉教授	Arno A. Penzias	元ルーセントテクノロジー社 ベル研究所技術最高顧問
岡 村 總 吾	東京電機大学名誉学長	Edward E. David, Jr.	元米大統領科学顧問
岡 本 道 雄	(財)国際高等研究所特別顧問	James L. Flanagan	ラトガース大学副学長
川 崎 雅 弘	科学技術振興事業団理事長	John M. Thomas	ケンブリッジ大学教授
木 田 宏	(財)新国立劇場運営財団顧問	Lewis M. Branscomb	ハーバード大学名誉教授
小 山 弘 志	国文学研究資料館名誉教授	Lotfi A. Zadeh	カリフォルニア大学バークレイ校教授
清 水 司	東京家政大学長	Walter L. Engl	ドイツ・アーヘン工科大学名誉教授
戸 張 正 雄	国立国会図書館長		
長 倉 三 郎	(財)神奈川科学技術アカデミー理事長		

20名（五十音順）

名誉教授（学術情報センター）

大 野 公 男	北海道情報大学長	山 田 尚 勇	東京大学名誉教授
市 川 惇 信	東京工業大学名誉教授	井 上 如	
西 田 龍 雄	京都大学名誉教授		

組織／予算・定員



定 員(平成 13 年度)

所 長	企画調整官 (副所長)	教授	助教授	助手	小計
1	1	② (11) 28	(10) 28	17	② (21) 75
事務官	技官	一般職員		小計	合計
34	33	10		77	② (21) 152

○は外国人客員で外数 ()書きは客員分で外数

歳入決算額(平成 12 年度) (単位:千円)

産学連携等研究収入	117,281
雑 収 入	49,879

歳出決算額(平成 12 年度) (単位:千円)

区 分	人件費	物件費	産学連携等 研究費	施設整備費	計
国立学校 特別会計	1,121,480	8,687,086	104,783	761,517	10,674,866

研究総主幹
小 野 欽 司

開発・事業部
部長:羽鳥 光俊
次長:高野 茂

管 理 部
部長:松岡 憲雄

国際・研究協力部
部長:濱田 喬

* は客員研究部門

情報学基礎研究系

研究主幹：小野 欽司

情報基盤研究系

研究主幹：浅野正一郎

ソフトウェア研究系

研究主幹：丸山 勝巳

情報メディア研究系

研究主幹：山本 毅雄

知能システム研究系

研究主幹：上野 晴樹

人間・社会情報研究系

研究主幹：内藤 衛亮

学術研究情報研究系

研究主幹：根岸 正光

実証研究センター

センター長：宮澤 彰

情報学資源研究センター

センター長：安達 淳

企画調整課

課長：藤川 俊三

ネットワークシステム課

課長：猪瀬 一夫

コンテンツ課

課長：京 藤 貴

アプリケーション課

課長：川瀬 正幸

総務課

課長：常盤 勝己

会計課

課長：福治 友英

研究協力課

課長：松井 一澄

広報調査課

課長：秋山 和男

成果普及課

課長：北村 明久

研究成果普及推進室

室長：宮澤 彰

アルゴリズム基礎研究部門

情報数理研究部門

記号科学研究部門

認知科学研究部門

生命情報科学研究部門 *

計算機アーキテクチャ研究部門

ネットワークアーキテクチャ研究部門

高機能ネットワーク研究部門

情報流通基盤研究部門

ネットワークセキュリティ研究部門 *

プログラミング言語研究部門

ソフトウェア工学研究部門

データ工学研究部門

分散統合処理研究部門

高信頼ソフトウェア研究部門 *

大規模ソフトウェア研究部門 *

画像情報処理研究部門

統合メディア処理研究部門

情報検索研究部門

コンピュータビジョン研究部門 *

知識処理研究部門

計算知能研究部門

人間機械協調研究部門

ロボティクス研究部門 *

情報管理学研究部門

情報利用学研究部門

情報図書館学研究部門

情報制度論研究部門

人文社会系研究情報研究部門

理工系研究情報研究部門

生物系研究情報研究部門

実証研究推進室

共同研究企画推進室

超高速ネットワーク研究室 *

高品質ネットワーク研究室 *

フルテキストコンテンツ研究室 *

バーチャルライブラリ研究室 *

資源構築利用推進室

データコレクション研究室 *

企画調整係

情報基盤整備係

共同利用係

ネットワーク開発企画係

ネットワーク整備運用係

ネットワークセキュリティ係

コンテンツ形成管理係

文字情報係

画像コンテンツ係

計量情報係

システム開発管理係

データ処理技術係

ネットワークソフトウェア技術係

総務係

企画法規係

人事係

総務・監査係

司計・管財係

経理係

用度第一係

用度第二係

施設係

研究協力係

国際交流係

広報調査係

情報資料係

国際事業係

企画調査係

成果普及係

専門研修係

施設

学術総合センター（東京都千代田区）

学術総合センターは、我が国の学術研究基盤の充実強化を図るため、情報学等の研究、学術の交流、学術情報の発信、社会との連携の拠点施設として建設され、平成11年12月に竣工しました。高層棟は、国立情報学研究所をはじめ、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、国立学校財務センター(一部)、大学評価・学位授与機構(一部)の4機関が入居し、各機関が有する学術に関する諸機能を総合的に発揮することにより、高度の知的創造拠点の形成を目指しています。また、低層棟は、一橋記念講堂などの会議施設となっており、国立大学等による国際会議や学会、講演会等に幅広く対応しています。



一橋記念講堂



図書室

情報学分野の内外の学術雑誌を中心に、図書・雑誌等の資料を収集しており、情報学の専門図書室として整備を進めています。

蔵書冊数・雑誌タイトル数

資料種別	図書(冊)	雑誌(冊)	雑誌(タイトル数)
国内資料	10,624	12,050	183
国外資料	6,109	8,949	273
計	16,733	20,999	456



千葉分館（千葉市稲毛区）

学術情報システムの運用や各種学術情報サービスの提供を行う計算機システム及び学術情報ネットワーク関連の機器類を配置する電子計算機棟として、東京大学生産技術研究所千葉実験所の敷地内に建設され、平成6年11月に竣工しました。



千葉分館案内図



土地面積（借用分）：1,782m²
建物面積：3,715m²

国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）

国際的な研究交流の場として、長野県軽井沢町に建設され、平成9年3月に竣工しました。国際会議、各種セミナー、研修等に使用することを目的として、セミナー室（46人収容）や宿泊室等を設けており、国立情報学研究所はもとより、大学共同利用機関の施設として、広く大学等の利用に供しています。



国際高等セミナーハウスにおけるセミナー

国際高等セミナーハウス案内図



土地面積：3,339m²
建物面積：667m²

昭和48年(1973年)10月	学術審議会第3次答申(学術振興に関する当面の基本的施策)において、基本的政策として、「学術情報の流通体制の改善について」提言
昭和53年(1978年)11月	文部大臣から学術審議会に対し「今後における学術情報システムの在り方について」諮問があり、昭和55年(1980年)1月に答申
昭和51年(1976年)5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和58年(1983年)4月	東京大学文献情報センターの設置(情報図書館学研究センターを改組)
昭和59年(1984年)12月	目録所在情報サービス開始
昭和61年(1986年)4月	学術情報センターの設置(東京大学文献情報センターを改組)
昭和62年(1987年)4月	学術情報ネットワークの運用及び情報検索サービス開始
昭和63年(1988年)4月	電子メールサービス開始
平成元年(1989年)1月	学術情報ネットワークの米国との国際接続(全米科学財団:NSF)
平成2年(1990年)1月	学術情報ネットワークの英国との国際接続(英国図書館:BL)
平成4年(1992年)4月	図書館間相互貸借(ILL:Inter-Library Loan)システムの運用開始 インターネット・バックボーン(SINET)の運用開始
平成5年(1993年)11月	日本科学技術情報センターとゲートウェイによるデータベースの相互利用開始
平成6年(1994年)4月	英国図書館原報提供センター(BLDSC)とのILL接続サービス開始
平成7年(1995年)10月	学術情報ネットワークのタイ王国との国際接続
平成8年(1996年)4月	国立国会図書館とのILL接続サービス開始
平成9年(1997年)3月	国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)竣工
4月	電子図書館サービス開始
平成12年(2000年)2月	学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋)内に移転

平成9年(1997年)12月	文部省、情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議を設置
平成10年(1998年)1月	学術審議会において「情報学研究の推進方策について」建議、情報研究の中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言
3月	情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議、報告書を提出
平成10年(1998年)4月	情報研究の中核的研究機関準備調査室が設置され、5月に委員会が発足
平成11年(1999年)3月	情報研究の中核的研究機関準備調査委員会、報告を提出
4月	情報研究の中核的研究機関創設準備室が設置され、5月に準備委員会が発足
7月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、中間まとめ提出
平成12年(2000年)3月	情報研究の中核的研究機関創設準備委員会、報告書提出

平成12年(2000年)4月

国立情報学研究所の設置(学術情報センターを廃止・転換)

問い合わせ先

国立情報学研究所全般に関すること
TEL 03-4212-2000 (代表)

情報公開に関すること
TEL 03-4212-2020,2021 FAX 03-4212-2035 総務課 企画法規係

広報に関すること
TEL 03-4212-2132 FAX 03-4212-2150 広報調査課
E-mail:kouhou@nii.ac.jp

研究協力に関すること
TEL 03-4212-2105 FAX 03-4212-2120 研究協力課 研究協力係
E-mail:kenkyou@nii.ac.jp

国際交流に関すること
TEL 03-4212-2110 FAX 03-4212-2120 研究協力課 国際交流係
E-mail:kenkyou@nii.ac.jp

学術情報ネットワークに関すること
TEL 03-4212-2255 FAX 03-4212-2270 ネットワークシステム課 ネットワーク開発企画係
E-mail:net6@sinet.ad.jp

各種情報サービスの利用申請に関すること
TEL 03-4212-2225 FAX 03-4212-2230 企画調整課 共同利用係
E-mail:user-request@nii.ac.jp

目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) に関すること
TEL 03-4212-2355 FAX 03-4212-2375 コンテンツ課 コンテンツ形成管理係
E-mail:catadm@nii.ac.jp

情報検索サービス (使い方・内容) に関すること
TEL 03-4212-2305 FAX 03-4212-2330 アプリケーション課 システム開発管理係
E-mail:irhelp@nii.ac.jp

電子図書館サービス (使い方・内容) に関すること
TEL 03-4212-2315 FAX 03-4212-2375 コンテンツ課 画像コンテンツ係
E-mail:els@nii.ac.jp

オンラインジャーナル編集・出版システムに関すること
TEL 03-4212-2320 FAX 03-4212-2330 アプリケーション課 ネットワークソフトウェア技術係
E-mail:oljhelp@nii.ac.jp

学協会情報発信サービスに関すること
TEL 03-4212-2215 FAX 03-4212-2230 企画調整課 企画調整係
E-mail:wwwsoc@nii.ac.jp

学術研究活動等に関する調査に関すること
大学等の研究活動を総覧する情報提供サービスに関すること
TEL 03-4212-2135 FAX 03-4212-2150 広報調査課 広報調査係
E-mail:dirr@nii.ac.jp

成果普及・教育・研修に関すること
TEL 03-4212-2165 FAX 03-4212-2180 成果普及課 企画調査係
E-mail:edu@nii.ac.jp

